

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 Aユニット)

事業所番号	0670400928		
法人名	グループホームふきのとう株式会社		
事業所名	グループホームふきのとう		
所在地	山形県米沢市塩井町塩野2057		
自己評価作成日	令和 元 年 12 月 22 日	開設年月日	平成 15 年 11 月 7 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれ、庭には畑や花があり、野菜(大根・白菜・ねぎ等)や柿の木、ふき等の収穫や旬の味を楽しんでいただいている。隣接して医療機関があり、密な連携がとれており、急変時や有事の際にはすばやい対応が可能となっている。また、運営者が看護師であり、敷地内に居住している事から24時間の対応が可能。地域の小学校や保育園、地区との交流もあり協力体制ができています。ホーム内ばかりで生活するのではなく、外出や散歩など戸外での活動機会を多く取り入れている。また、外出は個別でも対応をしており、個性を尊重した関わりで配慮している。ホームには職員が作詞作曲した「みんなは家族」という歌もあり、皆で歌っており明るく笑顔の絶えないホームである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の平均年齢は90歳となり、最高齢で100歳を超える方も元気に暮らし、90歳代の方が世話をする姿がほほ笑ましく映っています。以前は頻繁に出来ていた外出なども少なくなっていますが、地続きの理事長自宅庭で花を見ながら食事やお茶会を行うなど、工夫して季節の移ろいや開放感を味わってもらっています。医療面では隣接するクリニックと緊密に連携し、看護師でもある理事長の豊富な経験と知識も併せて万全の体制を整え、利用者や家族のみならず職員にも安心感を与え、毎日の申し送り時はお茶を飲みながら職員間の意思疎通を大事にして統一した支援に繋いでいます。地域とは深い絆を結びながら互いに協力し合い、様々な場面で地域になくてはならない存在となっている事業所です。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 2年 1月 17日	評価結果決定日	令和 2年 2月 6日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員間での問題があった時でも福祉理念を振り返り、知識と認識を再確認する場としている。事業所の歌の歌詞にも理念が含まれており職員、利用者、家族とも理念を共有しているものとなっている。	当初に定めた福祉理念をわかりやすい言葉で著した事業所理念と、日々の行動指針として掲げた「ふきのとう10ヶ条」を全職員がいつも心に留めている。毎月の研修会で反省点を発表し振り返りを行い、常に立ち戻るところとして共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園の行事、夏祭りの参加。天気の良い日は隣の神社まで散歩したりしている。地域のカラオケ慰問、清掃の参加等交流を図れているが、状態の変化により日常的とまでは行っていない。	日ごろから地域との付き合いを大事にし、町内清掃や文化祭バザー出品などの協力をしている。また避難訓練への地区住民参加・保育園児や小学生の訪問・中学生の職業体験なども受け入れ、利用者は子供たちとの触れ合いを楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事や運営推進委員会の開催の際に会話や質問に応じている。認知症相談窓口は設けているが相談の電話は無かった。認知症カフェの取り組みは、人間的な所で実践できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	口頭のみではなく、ビデオで映像を見てもらい意見を頂いている。そして会議で出た意見を反映した。(夏祭りや防災など)不参加の方にも郵送し情報を共有している。	「よりあい」と称して3ヶ月に1度の開催で、生活の様子をビデオで見てもらい多彩な活動内容に理解を深めてもらっている。アドバイスを取り組みに活かしたり、出された地区の情報から利用に繋がった例もあり有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ホームの指針等の書式作成時に助言や相談を兼ねなくできる関係。	市の方針により質問や相談の内容をあらかじめメールなどで送り、後日訪問し顔を合わせて不明点の問い合わせや相談に乗ってもらい良好な関係を築いている。毎月介護相談員を受け入れ、報告から参考になることもあり関わりに反映させている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	施錠・拘束する場面はなかった。身体拘束指針作成に伴い改めて職員での学習や家族の方にも身体拘束について学んで頂いた。	職員研修会や運営推進会議でも身体拘束について取り上げ、内容と弊害を理解している。転倒の危険のある方にはセンサーマットの利用や、時期毎に帰宅願望が出る方は日めくりを外したりみんなが同じ言葉をかけて留まってもらうなどの工夫をして、抑圧のない穏やかな暮らしを支援している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部学習会にて知識習得に努めた。また、ケアの実践の中での無理強いや声掛けも場合によって虐待につながることを理解し、どのように対応・声掛けしていくか話し合いを持った。他に外部での研修会を行い、研修を受けたものが研修会を行い他職員へあらためて知識の理解と情報の共有を図っている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の受講はしており最新の知識と情報を得ている。かつホームの研修会の際に研修報告を行い情報の共有を図っている。他の利用者様についても必要性があれば家族への説明を考えている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には時間がかかることを予め説明しており、時間をかけて説明を行っている。説明後には必ず不安や疑問がないか尋ね、理解・納得を得ている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の定期開催により外部の方へ意見を述べる機会がある。 家族の面会時に近況報告し、希望・要望に応じ取り組んでいる。	家族面会時にはお茶を出して気軽に話せる雰囲気づくりに心掛け、意見や要望を聞き申し送りや研修会で話し合い共有している。広報誌「ふきのとう」では利用者の様子を伝え、家族からは感謝の言葉が多く聞かれている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	研修会の定期開催(月1回) 朝夕ユニットの申し送り時にお茶を飲みながら意見を言える関係性になっている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	期限なくベースアップと処遇改善交付金の満額支給の努力に努めている。職員が不足していることから有給休暇を気軽にとれる環境が整っていない。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加意力のある職員もいたが勤務状態等により参加が難しい時もあった。	外部研修会は経験や立場を考慮して勤務時間内で派遣し日当や昼食代などの手当て支給で経済面の負担感をなくし、意欲の向上を促している。毎月の内部研修では隔月でAED取り扱いを繰り返し学ぶなど、より実践的な学習を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	ケアマネ学習会や他事業所の利用者と職員が来訪時、広報誌を持参している。	地区全体のグループホームが集まる機会が少なく、個別で他事業所に利用者と共に広報誌を持って訪問し合い、お茶を飲みながら会話を楽しんでいる。業界の雇用状況などの情報を得ることもあり、互いに良き交流相手となっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には必ず本人との面接を行っており、時間をかけて聴き取りをおこなっている。入所後知っている顔があり安心できるような配慮をしている。また、入所を受け入れられない方に日帰り及び宿泊と段階的に慣れていただけるよう対応する準備がある。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みの際には、必ずホームの見学をしていただき雰囲気を見ていただいた上、時間をかけて説明、会話を持ち、納得の上で申し込みしていただき、老々介護が増えている中で本人以外の家族の困り事、不安事にも耳を傾け本人と家族、医者への配慮を行っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所の料金等の悦明と内容の他に、他のグループホームの案内をし本人、家族に選択をして頂けるよう配慮している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的に調理、洗濯、掃除など教えていただく場面がある。笹まき、ぼた餅作りでは、分からない職員も多く教えていただいた。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状況に応じ家族が泊まりたいとの希望を受け入れ対応している。入院時、医療機関との連絡および洗濯の対応を行っている。日常的に時間外でも個人携帯電話への連絡を受け、相談援助の実施を行っている。夏祭り等の行事で家族と食事しながら情報の共有を図った。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の方や地域の方の訪問を頂いている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他の利用者同士で協力し合いながら家事活動、創作活動を行う事ができている。利用者同士での関係性を大事にし問題があれば円滑な方向に進むよう工夫している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所先や家族との相談に応じ、連携をとり、退所後の経過確認、面会等を行っている。お会いした際には積極的に会話を持っており、ご家族が退所後も顔を出してくださる関係ができている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常、食事中の会話、さりげなく言った言葉などで要望の把握に努めている。困難な方は家族と時間をとって話し合ったりしている。	入居時に利用者や家族等から聞いた意向を共有しながら、日々の関わりの中で利用者の新たな思いを引き出し、やりたいことや出来ることを大事にしている。高齢の利用者同士が競って家事を行うなど、生き生きとした姿が見られている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	食事中の会話や家族からの情報をもとにミーティング等で報告。共有している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常的に状況を観察・判断し、本人・家族や医師の意見も考慮しながら毎日の申し送りや毎月のミーティングの場で情報の確認・共有をし対応を検討している。センター方式を活用し、現状の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンス、日々のミーティング、家族からの情報を、元に計画作成。日々ケアプランに副った支援及び日常的にモニタリングを行っている。	出来ることが徐々に少なくなっている方が多いが、今持っている力を維持できるようにプランの作成や見直しを行っている。立ち上がれなくても鏡を見て髪をとかしたり顔をふくなど、出来ることを見つけてプランに取り入れ達成感を味わえるよう支援している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で情報交換、共有する為の記録書式を一本化し使いやすくしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>保育園行事参加。 地域の清掃参加。</p>			
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入所前から長年通っている主治医がある場合、本人が通える意志と能力がある場合は、入所後も関係を絶たず継続した医療支援している。</p>	<p>かかりつけ医は希望に沿っているが、ほとんどの利用者が協力医療機関である2つのクリニックの定期的な往診を利用している。通院は家族等の協力を得たり職員が付き添う時もあり、医療機関との情報交換を密にして安心な医療体制に繋げている。</p>		
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>理事長が看護師のため24時間対応が可能。理事長が朝夕のミーティングに参加し日々情報を共有している。隣の医療機関の看護師と契約・連携し、24時間連絡可能な状態となっている。また日常的に訪問を受けている。</p>			
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入退院調整ルールにより、医療機関・従事者との情報交換が密にできている。また医師・看護師と情報交換をしていて助言をいただいている。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>看取りの同意書を家族から頂き、医師・家族・事業者でチームとしてケアプランに基づき話し合いをしている。</p>	<p>利用開始時に家族等に指針に基づいて説明している。状態の変化に応じて家族等・主治医・職員で話し合いを重ねて方針を統一し、希望に応じて看取りを行っている。看護師である理事長が情報を共有して何時でも対応可能で誠意を持って取り組んでいる。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会でのAED訓練。外部でのAED講習会受講。ホームの研修時、身体急変マニュアルを確認している。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昨年の助言に基づいてリュックの中に家族の連絡先や利用者の服薬情報が分かるように準備している。	消防署・地域住民の参加を得ながら想定を変えた避難訓練を実施し、いざという時の協力体制を築いている。非常持ち出し用リュックは建物内6ヶ所に設置しており、利用者・家族等の情報、救急用品、飲料水、食料品などを用意している。	夜間想定訓練は実施しているが、実際の夜間に行ってみることで気づくこともあるので取り組んでみることに期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホームの研修時にしており遵守事項(10ヶ条)に基づいて学習・振り返りを行っている。	入居時に家族等から利用者の広報誌などへの写真掲載の許可を得ており、プライバシーに関する「ふきのとう10ヶ条」の遵守は新人研修に組み入れ、職員同士でも確認し合っている。家事活動が得意な利用者が多く競い合っているほどで日課となり、職員が教えてもらうこともある。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	人員不足により、利用者の希望や選択していただく場面の機会が減っている。飲食物の選択等を継続し行うと共に入浴時等、衣類の選択をしてもらう配慮も必要と感じている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴を断られたり、拒まれたりした場合は無理強ひせず別の日に支援している。ただし職員不足により希望の日に入浴ができない環境でもある。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事等に季節に合った衣装を着て頂き化粧をしておしゃれを楽しんでいただいている。また個人で美容室に通われている方の支援している。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ミキサー食の方へ、ソフト食を提供したり色使いにも配慮した。	外部の栄養士からアドバイスを受けたバランスの良い手作りした食事を提供している。下ごしらえや洗い物に利用者の手伝いがあり、干し柿・笹巻き・ぼた餅などは職員と一緒に作っている。誕生日のリクエストメニュー・外食・行事食・出前などを取り入れ利用者も食事を楽しみにしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	Aユニット、Bユニット合同で食事会やお茶会に参加した。また景色を楽しんでもらう環境作りを行った。目と舌で食事を楽しんで頂いている。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に応じて支援している。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	下肢筋力が低下していてもすぐにオムツを使用せずにトイレ誘導を行い排泄介助を行っている。自立に向けた取り組みを行っている。	排泄パターンを把握し、なるべくオムツを使用せずトイレで排泄出来るように支援している。訴えが出来ない方や30分毎のコールなど一人ひとりに合わせたさりげないトイレ誘導をしている。好きな飲み物で水分補給し、午前と午後に体操をして便秘予防に努めている。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	多様な飲み物を準備しており、好みの飲み物を提供している。水分の自力摂取困難な方には介助を行っている。できるだけ、お茶前に体操している。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	勤務状況に応じて入浴している場面が多々あり、一人一人の希望やタイミングに合わせた入浴は難しかった。	週2回の入浴を目安に身体状況に応じて2名介助、シャワー浴、清拭などを取り入れている。希望があれば同性介助に配慮し入浴剤の使用などで、安全にゆっくり入浴出来るように支援している。拒否する方には無理強いせず職員が連携し声掛けを工夫して誘導している。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、気持ちが落ち着かない利用者がいた場合は傾聴、受容と共に寄り添いながら安心して頂く支援をすることで安眠に繋げる支援をしている。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	読み上げと共にダブルチェックをし誤薬を防いでいる。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ドライブの実施。 家事活動の支援。 習字の活動支援。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の花の見学。地域の方々との交流を図っている。	天気の良い日や体調に合わせて季節の花見に皆で出かけて外食などを楽しみ、また行きつけの理容・美容院など個別の外出支援をしている。向かいにある神社への参拝、庭園での行事、畑作業、散歩など日常的に戸外に出る機会を作り気分転換を図っている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	加齢、認知症の進行に伴い金銭の管理については家族管理が主となっている。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ケータイ電話を持ち、家族と常に連絡が取れる状態となっている。季節ごとにご家族とハガキのやり取りを支援した。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾り、花の好きな方に喜んでいただいている。 廊下、食堂などにギャラリーの作品の掲示。 居室・食堂は季節に応じた装飾をしている。	廊下・食堂には利用者の作品や写真を掲示し、飾りつけや窓の外の景色から季節を感じることが出来て全体がアットホームな雰囲気である。和室にはこたつを設置していたが高齢化に伴いソファーに変えるなど、その時々に合わせてレイアウトにして安全に快適に過ごせるよう工夫している。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室にソファーの設置。個人で思い思いに過ごされている。日当たりの良い廊下の窓辺にテーブルを置きお茶会等をして頂いている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>以前から使用しているものを持ってきていただき使用していただいている。本人や家族と相談し意向に合わせた支援を行っている</p>	<p>持ち込みや掲示物は自由にしてもらい自分好みの居室作りをしており、清掃や衣替えは利用者と職員が一緒に行っている。その日の洋服はクローゼットから自分で選んでもらっている。センサーマット利用や特に夜間は見守りを強化して居室内の安全確認をしている。</p>	
54		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレ・浴室・廊下に手すり設置。 転倒予防のマット、センサーの設置により安全に過ごせるよう配慮している。</p>	/	/